



立場が変わったら！

各事業所やフロアーに掲示

永 寿 会 通 信

黄色い飛行船 第18号

2016年 10月 1日

9月18日午前二時、私は急な腹部の激痛で目が覚めました。たちの悪い食中毒にかかり、ズボラな体質でも支障がでたのかとドッキリです。しかし、思い当たるような食材は思い浮かばず、心当たりは有りません。激痛は3分に1回位絶えることなく続き、食中毒の初期でよく服用される「正露丸」を飲むも効果は全く。ついには5時には嘔吐まで出て、もはやこれまでと救急搬送が脳裏をよぎりました。

しかし、近隣のご迷惑が有ろうかと自宅の車で「寄らば大樹の影365日24時間」の「湘南藤沢徳洲会病院」へ腹部を抱えつつ送られました。各種検査の結果、小腸に閉塞みられるとの事で、入院。病棟は心臓疾患があるため、4階心臓病センター4床部屋へ車椅子で運ばれました。2日間の絶食、重湯、5分粥で6日間の闘病となりました。

4日間後までは8時間以上腹痛の影響が腹筋に残余痛が残り続けました。この期間で気付きたことは幾つかありましたが、仕事、業務で生かさされたり、参考となるようなことで重要なことがありました。それは4床部屋で3名が入院していましたが、私と同年代と思いき方の存在で、言動が非常に気になったことでした。看護師が来室すると親しげな挨拶と「大変だねー」とか、「有難う有難う」と繰り返し言葉掛けをし、何度も入院しているらしく個人的事情の会話をしていました。しかし、同室者だけの時は、他の入院者が居ても構わず、1人言として「飯が不味い。腰が痛い。かったるい。」と夜遅くまで、ぶつぶつ言っており、大変迷惑なことでした。そこ感じたことはその場の雰囲気壊し、他人に嫌悪感を与え、看護師の動きや会話で感心しない状況に陥れられてしまうのは新人ではなく、中堅で慣れた方が会話に引きずられ、馴れ馴れしくなってしまうようで、同室のもう一人の入院者は転床していくときに「ここは煩くて嫌だった」と看護師に伝えていました。

人格に裏表が有ったり、余り敬意を持ってない人物は処し方が大変難しいものですが慎重に注意しながら対処しないと、人間関係やその場の雰囲気が破壊されかねない状況が出てきてしまいます。「立場を変えてみてどう思い感じるか」を考えなくてはなりません。その場を旨く泳ぐ人や取り繕う人には留意が必要です。

特に中堅で、業務に慣れてこられた方は引きずられないように、誠意と決断が必要で円滑で良好な人間環境や関係性を築いていきましょう。

以 上